

施策評価シート (平成25年度の振り返り、総括)

作成日 平成26年 07月 08日

施策 No.	19	施策名	高齢者の自立と社会参加の支援
主管課名	福祉課	電話番号	0285-83-8195
関係課名	国保年金課 健康増進課 介護保険 生涯学習課 自然教育センター (社会福祉協議会)		

施策の対象	65歳以上の市民								
対象指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度見込
高齢者人口(65歳以上)	人				16,160	16,498	17,158	17,925	18,603

施策の意図	高齢者に ・健康で生きがいを持って生活してもらう ・積極的に社会参加してもらう ・自立した生活をしてもらう								
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法(算定式など)	・ねたきり高齢者は、介護4・5認定者とする。 ・社会参加している高齢者数は、老人クラブ、老人趣味クラブ、シルバー人材センターの会員数、地域福祉づくり推進事業(ミニデイホーム事業等)の参加者、65歳以上の民生委員とする。								
成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度基本計画目標値
ねたきり高齢者数	人				785	752	753	758	862
高齢者人口に占める割合	%				4.9	4.6	4.4	4.2	4.7
社会参加している高齢者数	人				5,797	5,952	6,255	7,016	5,800
高齢者人口に占める割合	%				35.8	35.6	36.5	39.1	31.4

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	・高齢者には、生きがいを持って積極的に社会参加してもらう。 ・行政は、自立した生活が送れるよう、生きがいづくりや社会参加をしてもらうための情報提供や支援を行う。								
-------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--

25年度の
評価結果

1. 施策の成果水準とその背景（近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること）

（1）施策成果の時系列比較（過去3年間の比較）

・社会参加している高齢者数は、毎年増加している。
・高齢化率の推移は次のとおりであるが、団塊の世代が65歳を超えたため、伸び率は大きくなっている。

平成23年10月：20.0%（前年比+0.3）、平成24年10月：20.7%（前年比+0.7）、平成25年10月：21.7%（前年比+1.0）

・高齢者のみ世帯は、子ども世代の独立、団塊の世代の高齢化などにより、増加している。

平成23年度：高齢者のみ2,459世帯（内ひとり暮らし1,211世帯）、平成24年度：高齢者のみ2,532世帯（同1,242世帯）、平成25年度：高齢者のみ2,876世帯（同1,373世帯）

・老人クラブ数と会員数は減少傾向にあるが、その要因は、働く高齢者が増えたこと、組織が高齢化して世代間の隔たりが生じていること、地域のつながりが希薄化したことなどが考えられる。

平成23年度：93クラブ・会員数3,261人、平成24年度：92クラブ・会員数3,112人、平成25年度：89クラブ・会員数2,893人

・シルバー人材センター会員数はやや減少傾向にあるが、その要因は、定年後の再雇用、高齢化による退会などが挙げられる。

平成23年度：登録会員数497人・受注額2億5,226万円、平成24年度：登録会員数474人・受注額2億2,738万円、平成25年度：登録会員数476・受注額2億1,542万円

（2）近隣他市との比較

・高齢化率（10月1日現在の人口統計）

平成23年：20.0%（県22.1%）、平成24年：20.7%（県23.0%）、平成25年：21.7%（県23.9%）

14市中では、いずれの年とも下野市、小山市に次いで3番目に低い。

【以下、補足事項欄参照】

（3）住民期待水準との比較

【補足事項欄参照】

2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括

・老人クラブ、趣味クラブ、シルバー人材センターへの加入促進を図った。

・老人憩の家、老人研修センターの利用促進を図った。

（平成25年度）老人憩の家：126日・延べ2,893人、老人研修センター：105回・延べ2,435人

・老人研修センターでは、児童生徒と高齢者との交流活動を行った。

・健康増進施設真岡井頭温泉の利用助成を行い、利用を促進した。

（平成25年度）温泉利用者数：延べ48,717人

・真岡市独自のみんなでつくる地域づくり事業で、地域福祉づくり推進事業（敬老会事業、ミニデイホーム事業、井頭温泉招待事業、介護予防体操事業、高齢者等見守りネットワーク事業）を実施し、高齢者の社会参加を支援した。

・介護予防のため、ノンケア体操など介護予防体操の普及、指導者の養成を図った。

・高齢者向け各種教室（口腔機能向上教室、シニア安心セミナー、認知症講演会など）を実施した。

3. 施策の課題認識と改革改善の方向

- ・団塊の世代が65歳を超えたため、前期高齢者が急増しており、高齢者の自主的な社会活動を支援していく。
- ・老人クラブ、趣味クラブの活動内容を市広報紙等で紹介するなど、加入促進を図る。
- ・地域福祉づくり推進事業の中で、介護予防体操事業の実施を促し、要介護状態にならないための健康づくりを推進する。また、高齢者見守りネットワーク事業や地域共助活動事業を活用し、地域での見守り活動を推進する。
- ・生きがい活動支援通所事業（デイサービス事業）や地域包括支援センターの介護予防事業（運動機能向上、口腔機能向上等）を活用し、認知症予防や引きこもり高齢者の社会参加を推進する。また、新たにシルバーサロンを開設し、高齢者の居場所作りを促進する。
- ・人感センサーなどを取り入れた、新たな緊急通報システムを導入し、高齢者世帯の安心の確保と見守りを行っていく。

25年度の
評価結果

補足事項

【1. 施策の成果水準とその背景のうち（2）近隣他市との比較説明】

- ・老人クラブ加入率（60歳以上人口に対する会員数の割合）
平成23年度：14.2%（14市中5位）、平成24年度：13.3%（同5位）、平成25年度：12.0%（同6位）
- ・シルバー人材センター加入率（60歳以上人口に対する会員数の割合）
平成23年度：2.2%（14市中5位）、平成24年度：2.0%（同4位）、平成25年度：2.0%（同4位）
- ・平成25年8月に日本経済新聞社産業地域研究所が実施した「全国市区『高齢化対応度』調査」では、「医療・介護」「生活支援・予防」「社会参加」の主要3部門と「その他」をあわせた総合順位で、県内では小山市に次いで2位であった。（全国702市区中88位：回答率86.5%）

【1. 施策の成果水準とその背景のうち（3）住民期待水準との比較説明】

- ・市民意向調査では、「真岡市の将来像」として、「高齢者や障がい者に思いやりのあるまち」が34.2%で11項目中1位、また、「今後力を入れてほしい施策」では、「高齢者福祉の推進」が46.9%で29項目中1位となっており、住民期待水準は高い。

【高齢化の状況】

- ・国の状況（26年版高齢社会白書（内閣府）より）
平成25年（2013年）10月現在、65歳以上の高齢者人口は、過去最高の3,190万人（高齢化率25.1%：前年24.1%）で、「団塊の世代」が65歳以上となる平成27年（2015年）には3,395万人（同26.8%）となり、平成54年（2042年）に3,878万人でピークを迎えると推計している。高齢化率は、総人口が減少する中で平成47年（2035年）に33.4%、平成72年（2060年）には39.9%に達すると推計している。
- ・真岡市の状況
第5期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（平成24年3月）では、平成27年（2015年）は高齢者数19,004人（高齢化率23.3%）、平成29年（2017年）は同19,858人（同24.5%）と推計している。本市の高齢化率（平成25年：21.7%）は、14市中低いほうから3位であるが、平成26年4月1日の住民基本台帳人口では、60歳から64歳までの人口が6,631人（人口構成比8.2%）で、5歳刻みの区分では最も多く、今後も高齢化率は上昇する。